

第 3 回日露投資フォーラムご発言メモ

2008 年 9 月 5 日（金）午前 10 時～正午

1 . はじめに

本年 7 月、日本経団連・日本ロシア経済委員会の委員長を拝命いたしました岡でございます。前任の安西さんの功績を引き継ぎ、ロシアとの経済関係のさらなる拡大と深化に向けて、誠心誠意、努めてまいりますので、以後よろしくお願い申し上げます。また本日は、第 3 回日露投資フォーラムにおいてこのような発言の機会を賜り、誠に光栄に存じます。

さて、日露投資フォーラムは、日ロ双方から多数の方々のご参加を得て、両国経済関係の拡大に向けた有意義な意見交換を行う重要な場として定着してまいりました。

このたびの第3回会合が、帝政ロシアの時代から政治、経済、文化の中心地として繁栄を続け、近年は日本企業の進出も目覚ましい、ここサンクトペテルブルクで盛大に開催されておりますのも、日ロ関係の一層の発展に寄せる両国の政府・経済界の強い期待の現われであると思えます。

本日は、日本の経済界を代表いたしまして、私から、特に日本の対ロ投資、地理的協力の拡大という側面に焦点を当てつつ、両国の経済関係の一層の拡大に向けた展望につきまして、申し述べさせていただきたいと存じます。

2 . グローバル経済における日ロ経済

現在、世界では、地球環境問題をはじめ、食料や資源・エネルギー価格の高騰、サブプライムローン問題に端を発した国際金融情勢の不安定化など、各国に共通する課題が山積しており、グローバル経済は、ますます厳しい環境におかれております。

そのような中、国際社会において責任ある立場にある日ロ両国は、資源・エネルギー製品の開発、生産、先進的な環境技術の開発・普及など、双方の強みを発揮することで、世界経済の持続的な発展に、これまで以上に貢献することが期待されております。

その中で本年誕生したメドヴェージェフ
新政権は、法の支配、司法の独立、経済活動の
自由化を更に推進されようとしております。こ
れは日口経済関係を拡大させると共に、世界経
済にも好ましい影響を与えるものであると、
高く評価されております。

3 . 日口経済関係の現状

さて、ロシアでは、近年、原油高などを背景
に高い経済成長率が維持されており、日本企業
のロシアに対する関心は、ますます高まって、
日口経済関係は史上最も活発な状態にありま
す。

ご案内のとおり、日ロ間の貿易高は毎年順調に拡大しており、この5年間で5倍以上に拡大し、2007年は213億ドルに達しました。特に、わが国からロシアへの自動車輸出の伸びは顕著であり、その結果、日本からの輸出は107億ドルに達しました。

また、今年1-6月の速報値では日本からの輸出が81億ドル、輸入が65億ドルで年間では300億ドルに達する勢いがあります。

同時に、日本企業のロシアへの投資も著しい増加を示しております。2007年の日本からロシアへの投資は約4.8億ドルでした。

また、投資対象分野も伝統的な資源・エネルギー分野に限らず、自動車、家電、通信、木材加工、流通、金融・保険など様々な分野において、日本企業の投資が実現していることは、大変喜ばしいことです。これは、日ロ経済関係が輸出入の量的拡大に加えて、質的にも多様化し、深化しつつあることの兆しであると考えております。

4 . 日ロ経済関係のさらなる発展に向けて

さて、ロシアでは、資源・エネルギーに依存した現行の経済・産業基盤を多様化し、広く国民が豊かさを実感できる社会を実現することが国家的課題となっております。

その為には、製造業をはじめとする様々な産業の育成や、地方における産業活性化などにより、産業の裾野を広げることが重要です。

この点に関しても、日本企業が協力出来る部分がありますので一例を紹介させていただきます。

従来、日本企業の事業活動地域はモスクワ、サンクトペテルブルグなどの大都市、及びその周辺が中心でしたが、最近、起工式を行った日系建機メーカーがヤロスラブリに、また日系自動車メーカーが、カルーガやタタルスタン・エラブガ市に工場を建設しており、その活動地域が広がってきております。

更に、日本と地理的に近い極東・シベリアにおける経済関係も進んでおります。

ご存知のサハリン ・ プロジェクトに代表される石油・ガス・石炭・非鉄金属などの資源・エネルギー分野への参画は、日ロ経済関係の象徴的存在であります。

加えて「極東・ザバイカル発展プログラム」で計画されております港湾・鉄道・電力・通信などのインフラ整備プロジェクトに対し、日本企業は大変大きな関心を持っております。日本企業がいかなる形でこれらのプロジェクトに協力出来るのか、今後ロシア側と協議していきたいと思っております。

これらの協力を通じて今後更に両国の経済関係が着実に発展していくと確信しております。

本日午後 2 時から当ホテルで開催される第 9 回
日ロ経済合同会議において「極東・シベリア地域開
発における協力」が第一テーマになっており、
具体的な議論を行ないたいと考えております。

一方、ロシア企業によるグローバルな事業拡大
に伴い、最近では、日本市場への進出を検討して
いるロシア企業が増えていると伺っております。
因みに 2007 年のロシアから日本への投資
は約 5 千万ドルでありました。わが国の市場は、
基本的に自由化され、対外的に開放されてあり
ます。今後、ロシア企業の対日投資が更に増加
し、その際に日本企業が良きパートナーとなれ
ることを期待しております。

5 . 終わりに

両国の経済交流は、冒頭申しましたように拡大基調にはございますが、両国のポテンシャル、潜在能力を考慮すれば、より一層発展させる余地があることは、ここにご出席の皆様方の共通の認識ではないかと存じます。そのためにロシア側に改善頂きたい点がございます。

日口経済委員会が会員企業を対象に定期的に行なっておりますロシアのビジネス環境に関するアンケートの結果では、ロシア進出に際して、法制の未整備、行政手続きの煩雑さ、人材確保の難しさなどの面で苦勞しているとのコメントが出ております。これらの点に関して、引き続いての改善努力をお願い致します。

また、最近OECDが纏めたロシア向け投資の分析では、事業者の財産権保護、透明性の高い税務手続きの必要性について指摘されておりますので、ご留意頂ければと思います。

最後になりましたが、今後の更なる日ロ経済協力発展のためには双方の関係者が連携を強化し、常に新たなビジネスチャンスの掘り起こしと、ビジネス環境の改善に努めることが不可欠であります。経団連といたしましても、これまで以上に様々な取り組みを積極的に行ってまいり所存でございます。

今回の日露投資フォーラムが、日ロ双方の皆様方の積極的な参画により、今後の日ロ経済交流の飛躍的発展の契機となりますことを祈念いたしております。

ご静聴、誠にありがとうございました。

以上